

古代

7世紀

12世紀半ば

金属のお金のはじまり

The First Coins

律令に基づく中央集権国家の建設を目指した日本では、7世紀後半から10世紀半ばまで、金属製のお金(銭貨)が発行されました。10世紀半ば以降、銭貨は発行されなくなり、それまでもお金として使われてきた米、絹や麻の布などが引き続きその役割を果たしました。

Ancient Times From the 7th to the mid-12th century

Japan issued metal coins from the latter half of the 7th century through to the middle of the 10th century, as it aimed to build a centralized government based on the *ritsuryo* code. Minting of coins ceased in the mid-10th century, and after that commodities such as rice, and cloth made from silk and hemp, which had also been used as money up until that point, continued to play a monetary role.

飛鳥時代

Asuka Era

7世紀 後半

Late 7th century

■ 銭貨の製造開始

Start of minting coins

奈良時代

Nara Era

8世紀 前半

Early 8th century

■ 国家による本格的な 銭貨発行

Start of coinage by the state

9世紀 半ば

Mid-9th century

■ 銭貨の軽小化と 粗悪化

Deterioration of the quality of coins

平安時代

Heian Era

10世紀

10th century

■ 国家による 銭貨発行の停止

Suspension of issuing coins

12世紀 半ば

Mid-12th century

■ 渡来銭の流入開始

Inflow of Chinese coins

古代



銭をつくる



めぐり始めた銭



銭にかわる米と布

Rice and Cloth in place of Coins

銭貨発行の停止

7世紀後半の律令に照準し、
たがひの銀貨が初めて発行されたが、
8世紀後半には、銀貨の発行が中止された。
その代り、米、絹、麻の布が
貨幣として使われてきた。
10世紀半ばまで、銀貨の発行が
中止されてきた。



1

銭をつくる

国家による銭貨生産の開始
The Start of Coinage by the State



必用銅銭莫用銀銭

無文銀銭と富本銭

Silver Coins Without Inscription and *Fuhonsen* Copper Coins

7世紀後半、中国の銭貨を手本にして、日本でも金属の貨幣、富本銭がつくられた。富本銭がつくられた時代の日本は、中国にならった中央集権国家の建設を進めていた。国家が編さんした歴史書『日本書紀』には、683(天武天皇12)年に銀銭の使用を禁じ、銅銭の使用を命じたことが記されている。

無文銀銭



表面に銀片を貼り付けて重さを整えている

無文銀銭
Silver Coin Without Inscription
7世紀半ば～8世紀初め
石神遺跡出土(奈良県)
奈良文化財研究所蔵

銀片を貼って重さを約10gに整えており、銀の地金価値で使われたと考えられる。

富本銭



外形が丸く、中央に四角い穴があいた円形方孔銭

富本銭
Fuhonsen (Copper)
7世紀後半
飛鳥池遺跡出土(奈良県)
奈良文化財研究所蔵
東アジアのなかで中国(唐)に次いで発行された金属の鑄造貨幣で、銅とアンチモンの合金。都づくりのため貨幣として流通させたとする説のほかに、まじない用の銭貨(厭勝銭)とする説もある。

『日本書紀』にみる銀銭と銅銭

『日本書紀』によると、683年に「今より以後、必ず銅銭を用いよ。銀銭を用いることなかれ。」という命令が出されている。



「銅銭」=富本銭
「銀銭」=無文銀銭

memo

飛鳥池遺跡の発見



飛鳥池遺跡(奈良県明日香村)の発掘調査により、683年に使用を禁じられた銀銭が無文銀銭で、同時に使用を命じられた銅銭が富本銭であることが明らかになった。

複数の工房が発見された飛鳥池遺跡



大量に出土した富本銭
飛鳥池遺跡は、7世紀後半の大規模な工房遺跡である。富本銭の未完成品とともに、富本銭をつくるためのさまざまな道具(鑄型・砥石・るつぼ・ヤスリなど)が出土した。

画像提供: 奈良文化財研究所

2

めぐり始めた銭

平城京の造営と和同開珎
Coins Get into Circulation

和同開珎の流通政策

Promoting Circulation of *Wado Kaichin* Copper Coins

律 令国家は、お金の全国的な流通を目指して708(和銅元)年に和同開珎(銭貨)を発行した。国家は、貴族や役人の給料の一部や都の造営にあたる労働者の日当を銭貨で支払った。また、銭貨の流通を促すために、米や布などのほかに銭貨でも税を納められるようにするなどの政策を行った。

奈良の都 平城京の造営と銭貨

708年5月に和同開珎銀銭、同年8月に和同開珎銅銭が発行された。和同開珎は、710年に新しく都となった平城京造営の労賃や資材の購入など、国家プロジェクトの支払いのために発行された。このうち、銀銭は710年に使用が禁止された。



銀銭 (Silver)



銅銭 (Copper)

和同開珎
Wado Kaichin
708年



せんぼん
銭范(鑄型)
Wado Kaichin Molds
8世紀

銭貨の流通政策

国家は、^{じゆせんし}鑄銭司(銭貨を製造する役所)で銭貨を独占的に生産し、発行を管理した。一方で、人々に広く銭貨の利用を促すためにさまざまな政策を打ち出した。

◆偽金づくり(私鑄銭)の禁止

- ・銭貨の私鑄は特に重罪とされた

私鑄銭者斬

◆銭貨の利用を促す主な政策

- ・多額の銭貨を蓄え納めた人に位階を与える
- ・税を銭貨で納めさせる
- ・旅人に食糧を買わせるために銭貨を持たせる



memo

日本がとり入れた中国の貨幣

中国では古くから天は円形で地は方形と考えられ、銭貨の形に天地が凝縮されていると考えられてきた。円形方孔銭は、日本を含む東アジア世界で19世紀まで使われた。



五銖銭
紀元前118年
中国の円形方孔銭は、秦の半両銭(紀元前3世紀)に始まり、前漢の五銖銭を経て唐の開元通宝で定形化した。



開元通宝
621年
中国の唐を代表する銭貨で、その大きさや4文字の銭文は、その後の東アジアの銭貨の基準となった。



富本銭とヤスリ
飛鳥池遺跡出土(奈良県)
奈良文化財研究所蔵
四角い穴は、そこに角棒を通して固定し、銭貨の側面をヤスリで磨くためともいわれる。

3

銭をつかう

奈良時代のお金と生活
Money and Daily Life in the Nara Era



市での買い物とくらし

Shopping at Marketplaces and Daily Life

平 城京には、国家が管理する市があり、食品や工芸品などさまざまな品物売る店が並んでいた。人々は給料として手にいれた銭貨を使って市で食品や日用品を購入した。地方によっては銭貨は使われず、米、絹や麻の布などがお金として使われた。

新銭の発行と物価

平城京からは、銭貨が数多く出土している。8世紀初め、平城京の建設にあたる労働者には1日あたり和同開珎1枚(1文)が支払われた。和同開珎の発行から約半世紀後に、和同開珎の10倍の価値をもつとされる万年通宝、神功開宝が相次いで発行された。

【奈良時代に発行された銭貨】 Coins Issued in the Nara Era



和同開珎
Wado Kaichin (Copper)
708年~



万年通宝
Man'nen Tsuho (Copper)
760年



神功開宝
Jingu Kaiho (Copper)
765年



開基勝宝 (金銭)
Kaiki Shoho (Gold)
760年
東京国立博物館蔵
Image: TNM Image Archives



大平元宝 (銀銭)
Taihei Genpo (Silver)
760年
拓本

memo

木簡にみる銭貨の使われ方

奈良時代の木簡などを通して、当時の物価の変動や銭貨が浸透していった様子が見られる。



西市交易銭

市での売買に使われた銭貨の付札
平城宮跡出土(奈良県)
奈良文化財研究所蔵
平城京の市で品物の売買に銭貨が使われたことを示している。



酒五斗直五十文
裏

別升一文
右銭一百四十九文

物の値段が記された木簡
長屋王邸宅跡出土(奈良県)
奈良文化財研究所蔵



十一月四日店物
裏

飯九十九文
別筒一文



申請月借錢事
表

借金について記された木簡
平城宮跡出土(奈良県)
奈良文化財研究所蔵
月ごとの借金(月借錢)の証文。奈良時代後半、下級役人たちは物価の上昇などにより生活が困窮し、役所からしばしば借金をした。

topic

お金と祈り

Money and Prayer

古代からお金には不思議な力(呪力)があると信じられており、現世や死後の世界への願いをこめて神仏などにお金が捧げられてきた。

埋められた銭貨



えなつぽ
胞衣壺と銭貨
平城京跡出土(奈良県)

生まれた子どもの健やかな成長を願い、銭貨や筆、墨などとともに胞衣(胎盤)を壺に入れて埋める風習が広がった。



地鎮としての銭貨

平城京跡出土(奈良県)
建物を新築する際に行われる地鎮祭や上棟式(祭)では、しばしば銭貨が使われた。



墓から出土した銭貨

小治田安萬倍墓出土(奈良県)
東京国立博物館蔵
墓には、墓誌(729年)とともに複数の和同開珎銀銭が副葬されていた。

藤原宮跡から出土した富本銭

藤原宮大極殿院(奈良県)の南門近くの地鎮遺構から、富本銭と水晶が入った平瓶が出土した。「日本書紀」には692年に「藤原宮地を鎮め祭らしむ」と記され、この鎮祭記事との関連が推測されている。



平瓶から取り出された富本銭と水晶



平瓶の内部を透視したX線CT写真
注ぎ口に富本銭、底部に水晶がみえる。



藤原宮の地鎮に
用いられた富本銭



飛鳥池遺跡出土の
富本銭

上記7点画像提供: 奈良文化財研究所

お金と水

お金を水で洗う習慣は、日本各地の清水の湧く場所などでみられる。



鎌倉の銭洗弁天
(銭洗弁財天 宇賀福神社)



鎌倉 銭洗いの井
井戸の絵のそばに「金あら井戸」とあり、「所持の金銀」をこの水で洗えば「今日の一片」が明日の「百判」になると書かれている。

4

銭にかわる米と布

銭貨発行の停止

Rice and Cloths in Place of Coins



古代銭貨の移り変わり

Transformation of Ancient Coins

古代には、7世紀後半の富本銭をはじめとして13種類の銅銭が発行されたが、材料となる銅の産出量が次第に減少したことなどから銅銭が小さく粗悪になり、人々から嫌われていった。10世紀半ばの乾元大宝を最後に銅銭は発行されなくなり、米や絹などがお金として使われた。

次々と発行された銭貨

流通している銭貨の価値が低下すると、国家は短い間隔で新しい銭貨を発行して銭貨の価値を維持しようとした。

[古代に発行された銭貨] Ancient Copper Coins

7世紀後半から8世紀半ば、銭貨は唐の開元通宝の規格に合わせてつくり、都や畿内を中心に使われた。



富本銭
Fuhonsen
7世紀後半
奈良文化財研究所蔵



和同開珎
Wado Kaichin
708年



万年通宝
Man'nen Tsuho
760年



神功開宝
Jingu Kaiho
765年

8世紀末以降、産銅量の減少にともなって銭貨は次第に小さく粗悪になっていった。



隆平永宝
Ryuhei Eiho
796年



富寿神宝
Fuju Shimo
818年



承和昌宝
Jowa Shoho
835年



長年大宝
Chonen Taiho
848年



饒益神宝
Nyoyaku Shimo
859年



貞観永宝
Jogan Eiho
870年

9世紀末以降の銭貨は、鉛を多く含む粗悪なものとなった。



寛平大宝
Kampyo Taiho
890年



延喜通宝
Engi Tsuho
907年



乾元大宝
Kengen Taiho
958年

memo

使われなくなる銭貨



『日本書紀』には、987年に国家が人々に銭貨の使用を強制しようとしたことや、銭貨が広く流通するように寺院に祈祷させたことが記されている。